

平成28年新年名刺交換会

平成28年新年名刺交換会が、平成28年1月22日（金）午後5時30分から生田神社会館に於いて井戸兵庫県知事をはじめ兵庫県・神戸市等関係行政機関の幹部、関係団体代表等の来賓をお迎えし、総勢152人の出席の下、盛大に開催されました。

開会に先立ち、先ず生田神社の巫女によるお神楽・豊栄の舞を奉納して参会者の繁栄を祈念し、平井会長挨拶、井戸知事及び松本顧問（兵庫県議会議員）挨拶、来賓紹介、国土交通大臣表彰を受賞された前田副会長への受賞祝い金の贈呈、新入会員紹介、賛助会員紹介と次第を進め、小山副会長の乾杯の発声により和やかな雰囲気の中で歓談に入り、出席者の交流を行いました。



豊栄の舞



平井会長挨拶

【平井会長挨拶（要旨）】

明けましておめでとうございます。井戸知事をはじめご出席いただいた来賓各位、会員各位に厚くお礼申し上げます。

申すまでもなく、当業界においても社員、技能者の高齢化が進み、近々の問題として若い人の入職促進に頑張っていかなければなりません。県においては建設業界と学校、労働局が一体となった活動を展開していただいておりますが、我々としましても電設業界が工業高校の生徒をはじめ若い人達にどれだけ認知されているのだろうか心配な面があります。そこで協会青年部会の幹部と相談して、今年は青年部会を中心として電設業界をどうやって知ってもらうか、いろんな仕掛けを考えてもらうこととしています。高校の生徒をはじめ女性に対しても、業界をアピールできるような活動を提案してもらえらるものと期待しています。

さて、昨年井戸知事は様々な形で地域創生について発信されていますが、協会としても県民局単位の10地区の活動をいかに底上げしていくか、地区の特徴をどのように高めていくか、そして社会のために貢献していけるか、より一層考えていかなければならないと思っています。

災害対応について申しますと、県と防災協定を結び、いざという時我々が協力できるような体制も作り、訓練も行っています。また、福井県を含めた近畿6電業協会でも広域の応援協定を締結していますが、目前に迫っていると言われる南海トラフ地震も想定して、もし万が一のことがあれば他県に応援に行けるように、新しい取組みとして各電業協会でもBCP、業務継続計画を整えつつあります。当協会としては、主に瀬戸内海側の理事会員会社でそれぞれBCPを策定しており、それをまとめて6電業協会に提供しようとしているところです。将来的には、各県民局単位でもBCPを策定しているような形で連携がとれるように、お互い助け合いができるような体制を作っていきたいと考えております。

ところで、今年大阪で全国規模の電設工業展が開催されます。協会では、県内の工業高校2校の生徒を毎回電設展に招待していますが、昨秋に高校から希望を募ったところ、なんと9校から希望が寄せられました。協会は2校分しか予算措置ができないので、主催者で親協会に当たる日本電設工業協会に助成のお願いをしているところです。最先端の技術に触れてもらい、電設業界が「おもしろい」、「やってみたい」という気持ちを持ってもらえるような、このような活動にこれからも頑張っていきたいと考えています。



井戸知事挨拶



会場風景

井戸知事挨拶要旨

改めまして明けましておめでとうございます。今年の新春は、ようやく今週に入り、冬らしくなってきました。特にスキー場がさっぱりだったのが、ようやく雪が訪れた状況です。そのために少雪対策というものをやりました。我々の生活が、天候に左右される面があることを改めて実感しております。

パリで開催されましたCOP21は、2030年の目標をそれぞれ各国が定めて、それに対する対策と実績報告をするという形で、ハードな枠組みではなく、ソフトな枠組みではありますが、全世界中が取り組むような枠組みが出来ました。ただ、今世紀中の地球全体の温度を1.5度減らすという目標は目標としては良いのでしょうか、どうやって減らせられるかとなってくると、まだ全然見当もつかないという状況ではないかと思えます。国全体の目標も、2030年に2013年対比でマイナス26パーセント、これも相当大胆な対応ですから、我々としては国の目標達成手段を十分に見極めながら県としても対応を進めていきたいと作業を進めております。

阪神淡路大震災から21年が経ちました。NHKテレビなどもいろんな特集をしておりましたが、私が注目したのが通電火災でありました。様々なデータを通電時間と火災の発生とを重ねてみると、通電後4時間ぐらいに火災が起こったという分析が結構多くなされていました。はっきりは分かりませんが、通電火災が原因ではないかと、もともとと言われてきたことではありますが、やはり指摘されていました。

ということはつまり、いざという時にブレーカーが落ちる或いは遮断するという危機管理対応をもっとしなくてはいけない。構造的に簡単で簡易なブレーカー遮断機があるようですが、阪神淡路を経験した我々だからこそ普及を図っていく必要があるのではないかと改めて感じた次第であります。

今年の景気がどうなっていくのか、私にも全然分かりませんが、先行指標が株式市場であるとするとなかなか予断を許さないということになるのかもしれませんが、そうなってくると建物の整備も少なくなる恐れもあり、電業業界も先行き仕事が減ると見込めるかもしれません。しっかり見極めて、誤り無く進んでいくことが今年の基本姿勢ではないかと思っています。県で言いますと、税収動向が一番の課題であります。市場的にはまだまだしっかりしているので、恐れることなく、しかし油断することなく歩んでいくことではないかと思っています。

最後になりましたが、いろいろな場面でご協力をいただいている電業協会の皆様にお礼を申し上げますとともに、今年一年、皆様方どうかよろしくお願ひ申し上げます。

主な行政関係出席者(敬称略)

井戸敏三(兵庫県知事)、吉本知之(兵庫県副知事)、松本隆弘(兵庫県議会議員・協会顧問)
三石真也(県理事)、笠尾卓朗(県まちづくり部長)、尾田博明(県県土企画局長)、小南正雄(県住宅建築局長)、秋山和裕(県環境管理局长)、土居康成(県企業庁次長)、中村義朗(神戸市住宅都市局設備担当部長)、大町勝(県住宅供給公社理事長)、山田聖一(県道路公社理事長)